

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [26157] 低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)

受託開始日

- 平成26年10月1日 (水)

低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)

低カルボキシル化オステオカルシン (undercarboxylated Osteocalcin; ucOC) はビタミンK欠乏時に産生されるオステオカルシン(OC)です。

OCはBGP (bone Gla protein; Glaは γ -カルボキシル化されたグルタミン酸の意味) ともいわれる49個のアミノ酸からなる分子量約6,000のタンパク質です。コラーゲンに次いで骨基質に多く含まれており、骨芽細胞により生成されるOCは骨の非コラーゲン部位の10~20%を占め、一部Gla化したものが骨基質中に蓄積されて骨形成に重要な役割を果たします。

OCには3ヶ所のGla化部位があり、 γ カルボキシラーゼの働きにより17位、21位、24位のグルタミン酸残基がGla化されGlu-OCがGla-OCとなり骨基質に取り込まれます。Gla-OCはカルシウムを骨に蓄積することを可能にしますが、Gla化されなかったオステオカルシンは骨基質に取り込まれず血中に放出されます。ビタミンKは、この γ カルボキシラーゼの補酵素であり、ビタミンKが不足すると γ カルボキシラーゼが働くことができず、低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)と呼ばれる正常な機能を有しないOCが産生されます。

血中でのucOCの上昇は、ビタミンKの不足およびGla-OCの低下を示します。骨中のビタミンK不足および血清中ucOCの高値は大腿骨頸部骨折のリスク因子となりますが、活性型ビタミンK₂剤であるメナテトレノンの投与が有効です。

骨粗鬆症の治療薬であるビタミンK₂剤の治療選択の指標、治療効果の判定に有用な検査としてご利用下さい。

検査要項

項目コード	26157
検査項目名	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 凍結
検査方法	ECLIA
基準値	4.50ng/mL 未満
所要日数	3~5日
検査実施料	167点 ([D008] 内分泌学検査「24」低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC))
判断料	144点(生化学的検査(Ⅱ)判断料)
備考	骨粗鬆症におけるビタミンK ₂ 剤の治療選択目的で行った場合または治療経過観察を行った場合に算定できます。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できます。

参考文献

白木正孝, 他: 医学と薬学, 57(4), 537~546, 2007.